

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年8月19日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0870102654		
法人名	株式会社 トゥルーケア		
事業所名	グループホーム ばなな	ユニット名	1丁目
所在地	〒311-4153 茨城県水戸市河和田町4433-40		
自己評価作成日	平成28年4月1日	評価結果 市町村受理日	平成28年9月6日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0870102654-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0870102654-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成28年5月18日	評価機関 決 済 日	平成28年8月19日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者様一人ひとりの尊厳を大切に身体的、精神的拘束のない中で安心して過ごせるよう対応しています。月2回の往診や訪問看護ステーションの連携をとりながら適切な医療を受けられるよう支援してきます。「身体及び心の拘束を行わないことを目指します」を理念の一つに掲げ、職員は利用者一人ひとりの尊厳を大切に考えて利用者の意向にそったきめ細かい支援ができるよう努めており、意思疎通が困難な利用者に対しても顔の表情やしぐさから思いや意向の把握に努めている。近隣にあるグループホームと夏祭りや秋刀魚焼き祭りなどの交流があり、利用者の楽しみとなっている。月2回協力医療機関の医師による訪問診察があるほか、訪問看護ステーションと提携し、看護師と24時間連絡可能な体制を整備して適切な医療が受けられるように支援し、利用者の安心につながっている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

運営母体が医療法人なので、月2回の訪問診療があったり、系列の看護師には24時間連携体制が整っているほか、訪問看護ステーションの看護師が、週1回利用者の健康チェックに来院している。

当法人は複数のグループホームや介護老人保健施設、特別養護老人ホームを運営しており、利用者の健康状態に応じた適切な介護を提供できるシステムとなっていることから、利用者や家族等の安心にもつながっている。

事業所では世代間交流と介護人材の育成の一環として、児童に「にこにこヘルパー講座」を開講し、高齢者の特性や昭和初期の生活を疑似体験してもらうため、昔の食事やわら草履作り、段ボールで作った井戸などの体験をして、利用者との交流する機会となっている。

事業所は交通量の多い幹線道路に沿った3階建てのビルとなっているが、できるだけ利用者が事業所内に閉じ込まれないよう、定期的にドライブや行事での外出を心がけており、利用者の楽しみの一つとなっている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を玄関入口や各フロアに掲示しています。その理念を職員同士共有し、日々実践できるように努めています。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を経営者と代表者で話し合って作成し、事務室や玄関、各ユニットに掲示するとともに、朝礼や職員会議で確認して共有を図り、実践に努めている。 現在理念の見直しを検討中である。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ふた月に一度の散髪ボランティアや、月二回のシルバーリハビリ体操のボランティア、歌声ボランティアの方が来所されています。散髪では髪型を変えて楽しまれたり、リハビリ体操では体を動かし、歌声では、なじみの歌を楽しまれ、時には当時は思い出し涙を流されたりしています。	事業所は自治会に加入しており、年2回ほどの地区の資源回収に職員と利用者で参加している。 地域の敬老会に参加したり、職場体験の専門学生や今年から水戸女子高等学校介護科の実習を受け入れている。 世代間交流として就学前児にニコニコヘルパー養成講座を開講し、昭和の体験としてわら草履作りなどを行い、交流している。 2ヶ月に1回の歌声ボランティアや、月2回のリハビリ体操を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2カ月に1度実施している運営推進会議開催時に参加者に認知症の方への理解や接し方について話しあっています。機会を設け、認知症サポーター養成講座の取り組みをしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の行事報告や運営状況、入居状況について報告させていただいています。市職員やご家族様から意見を頂き、今後のサービス向上に活かしています。	運営推進会議は家族等の代表や市職員、民生委員、管理者、職員で2ヶ月に1回開催しているが、区長や自治会長の参加を得るまでには至っておらず、民生委員の参加も1度となっている。 会議では利用者の生活の様子や事業所の取り組みのほか、外部評価の結果を報告したり、行事の報告などを行っているが、あらかじめ議題や課題を決めてから行っていない。 委員からの意見を受けて、交通量が多いため玄関は日頃から施錠をしている件を家族等に口頭で伝えて同意を得ている。	事業所の特性上、会議には毎回区長や民生員など、地域住民の参加を得ること、あらかじめ議題や課題を決めての会議の開催を期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	勉強させて頂く、と言う姿勢で、日常的に連絡を取らせて頂いている。また、運営推進会議時にも事業所の情報を伝えながら直面している課題等、助言をいただいたりしている。	管理者は市担当者が運営推進会議に出席した際や、要介護更新申請などで市担当者を訪問した際に、運営状況を報告したり、空き状況を報告している。 市の地域密着型グループホーム連絡協議会に参加して、意見交換をしたり、市の生活保護担当者が年に1回から2回来訪しており、情報交換をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所では身体拘束については行わない方向で貫いてきている。また、事業所内で身体拘束廃止について定期的に勉強会を行っています。	年1回身体拘束排除に向けた内部研修を実施しており、研修に参加できなかった職員には後日資料を配布し、全職員が身体拘束の具体的な行為や弊害を理解している。 現在骨折した利用者に、やむを得ずベッド柵を使用しているが、家族等へは口頭での説明のみで、「同意書」や「経過観察記録」等への記載はない。 日中玄関は施錠しており、各階の入口にはセンサーを設置している。	玄関の施錠やベッド柵等の拘束については、家族等への説明のほか、書面にて同意を得ることと、検討会議を開いて「経過監査記録」や「再検討記録」を残すことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員一人ひとりが認識し、些細なことでも見過ごさないよう虐待防止に努めています。また、虐待認識のアンケートをとったり、ケアカンファレンスで話し合いの機会を持っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見制度を学ぶ機会を持つようにしたい。個々の入居者様に必要があれば関係者と話し合い活用出来るように支援体制をとっていきたい。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様に十分な説明を行い、不安や疑問が生じていないか確認して同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様が見える場所に意見箱を設置し、要望を聞く機会を設けています。また、面会時や運営推進会議等でもご家族様の要望を聴き、その意見を運営に反映させています。	重要事項説明書に事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を明記して、契約時に家族等に説明するとともに、苦情相談受付窓口を掲示して、家族等が意見や苦情を言える機関を周知している。 利用者からは日々の会話の中から、家族等からは電話や面会時、行事時、家族会時などに意見や要望を聴くようにしており、「各階どこの職員かわからない」との家族等の意見を受けて、職員の名前を掲示したり、安全面を配慮してソファの位置を変えた。 各ユニットの入口には意見箱を設置しているが投函実績はなく、前回外部評価での課題でもあった、家族等への無記名アンケートを実施するまでには至っていない。	普段言えない意見等も汲み上げるために、家族等に無記名のアンケートを実施することを期待する、
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本社の人間が頻繁に事業所に立ち寄り、職員一人一人の意見や不満を聴く体制を取っている。	管理者は月1回の職員会議や、日頃より職員の意見等を聞くように努めているほか、職員アンケートを実施したり、法人本部より社長やホーム長が頻回に事業所に立ち寄り、職員の意見や要望を聞いている。 今年4月より勤務体制が3交代制となったが、早番職員が不足との職員意見を受けて、職員の募集をかけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別個別の雇用体制を実施しており、各自の能力に応じ課題や目標を投げかけている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体で行う研修としては、まだまだ数少ないと感じているが、個別に本人が抱えている業務への不安などについて、例を出しながら説明し、個人で今後の対応を考えるよう努めている。また、他事業所合同の研修会を月一回行い、全職員が平等に研修を受けられるよう工夫し、職員教育に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	近隣のグループホームの行事のお誘いを受けたり、事業所主催の行事にお誘いをして、入居者様、職員ともに参加させて頂き、交流する機会があります。また、勉強会に参加させて頂き、情報交換もさせて頂いています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	時間を掛けて本人の話聞き不安があれば相談に乗るようにしている。安心してサービスを受けてもらえるよう、時には提案し、実行、検討を繰り返し行わせて頂いてる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	制度、事業所についての理解が得られるよう時間を掛けて話し合いをもてるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様、関係者から情報を頂きながら初期に必要な支援を見出し、検討している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様との関わりの橋渡しはもちろんのこと、入居者様の家族との関わりが持てるようにチャレンジしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	報告や相談の連絡をまめに行い、ご家族様と入居者様との関わりが切れないよう努めている。また、面会時には日常の報告や相談を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方々との関わりは自由に行ってもらっている。その時々でこちらから連絡させて頂く事もあります。	入居時の聴き取りや利用者との日々の会話などから、利用者が築いてきた馴染みの人や場所を把握するよう努めている。 利用者の友人や親戚が来訪した際には、お茶を出して居心地よく過ごせるよう配慮している。 馴染みの理・美容室や店での買い物、外食、墓参り、自宅への外出などに家族等の協力を得ながら支援しているほか、外出が困難な利用者は生協の宅配を利用したり、昔から宗教活動をしている利用者は、知人が迎えに来て今でも活動しているなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の方の性格や相性などを考慮し、時には職員が間に入り、好きな歌や、共感できる話題のきっかけを作り関わりを持てるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事例は少ないかもしれないが、良好な関係が作れる様に、連絡をする際には世間話を含め思い出話などを取り入れるようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	今までの生活を出来る限り続けてもらいたいので、お部屋の環境作りに協力頂ける様にお願いしている。	職員は入居時の聴き取りやアセスメントシートのほか、利用者との日々の関わりの中で希望や思いを把握するとともに、申し送りノートや個人記録、ユニット会議などで共有している。 意思疎通の困難な利用者の場合は、家族等に相談したり、表情や仕草などで思いの把握に努めている。 居室担当職員を決めて、個別に居室でゆっくり話を聴くなど、利用者本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に必ずご本人様とご家族様に確認している。また、生活歴から得意であったことなどについては機会を作るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別個別で記録を取っており、変化があった時には情報を共有し、観察の強化に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員同士はもちろんであるが、本人や家族に話をする機会がある時に、相談や意見をもらえるように努めている。	介護計画は計画作成担当者が担当職員や職員で話し合って作成し、家族等に説明して同意を得ているが、利用者や家族等の意向を聴いたり、前回の外部評価でもあがっていた、署名と日付の記載を徹底するまでには至っていない。 3ヶ月毎にモニタリングを行い、短期目標は3ヶ月毎、長期目標は6ヶ月毎に設定して見直しをしている。 利用者の心身の状態等に変化が生じた場合はその都度現状に即した介護計画に見直し、利用者や家族等の確認を得ている。	介護計画は利用者や家族等の意向を取り入れた上で作成し、家族等に説明して署名と期日の記載を徹底することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ごとに記録は記載されており、必要に応じて連絡ノートを活用して職員間でより深い情報共有できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度ニーズに応えられるよう、職員、入居者様、ご家族様で話し合いを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々の協力を得てより豊かな生活が営めるよう支援をしていきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院があるのでこちらをかかりつけ医として希望される方が多いが、入居者様やご家族様の要望により選択してもらっている。	契約時に利用者や家族等に希望するかかりつけ医への受診が可能なことや、協力医療機関の医師をかかりつけ医にできることを説明している。 月2回協力医療機関の医師による訪問診療を支援し、全員が受診しており、結果は家族等に電話で報告するとともに、「受診結果報告書」や「往診ノート」に記載して全職員で共有している。 訪問看護ステーションの看護師が週1回来訪しているほか、24時間連携体制が整っており、家族等や職員の安心につながっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約により24時間連携が可能となっている。また、週1回、看護師が訪問に来られ、心身の健康チェックや相談に乗って頂いている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院していても本人の状態のことなど情報の共有をしている。入退院時にはサマリー等で情報交換を行う。また、入院中は本人が不安にならないよう定期的に職員が面会に訪問している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時や、重度化してきた際に説明を繰り返し行うようにしている。家族方針がメインになるが、その他の情報も提供し、ご家族様に1つでも選択肢が増える様支援している。	「重度化した場合の対応に係る指針」を作成し、入居時に家族等に説明して書面にて同意は得ているが、看取り介護を行うか行わないかの部分が曖昧なのと、重度化や看取り介護についての職員の対応マニュアルを作成したり、内部研修を実施するまでには至っていない。	看取り介護に関する事業所の方針と判断基準を確定するほか、看取り介護を行う行わないに関わらず、重度化した場合に備えて職員の対応マニュアルを作成し、内部研修を行うことを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行えていない為、年間のスケジュールを作成し、繰り返し勉強して実践力を身につけたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間、夜間を想定した避難訓練を毎月実施しています。また、月に2回災害伝言ダイヤルの練習を行っています。また、消防署員指導の下、避難、消化訓練を行っています。	消防署立ち会いや夜間想定等を含む避難訓練を行うとともに、毎月の職員会議時に事業所独自の避難訓練も行っているが、地域住民の参加を得たり、訓練後に課題を話し合って記録に残すまでには至っていない。 水戸市主催の「シェイクアウト訓練（地震訓練）」に参加している。 災害に備えて米や水、懐中電灯、おむつ類、毛布、卓上コンロ、ラジオ、石油ストーブ、紙コップ等を一覧表を作成して備蓄しているが、食料品を備えるまでには至っていない。	運営推進会議などで、地域住民の参加を呼びかけたり、訓練後に次回につながる課題などを話し合うとともに、訓練結果を記録に残すことを期待する。 米のほかに、数日分の食料品も備蓄することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士、声掛けには注意を払っている。個人への尊重は重視しており、会議等でも個人の尊厳を大切にしたい対応方法を考える場を設けている。	プライバシー保護に関する勉強会を実施し、職員は利用者の人格の尊重について確認している。個人情報の取り扱いについては、契約時に利用者家族等から書面にて同意を得ている。個人情報に関する書類は、施錠できる書棚に保管し、取り扱いに注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の生活スタイルを大切にし、本人の思いや希望を達成できるよう、ケアプランに取り入れながら対応している。			
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分のペースでの生活ができるよう配慮している。全て希望通りの支援を行えない場合もあるが、少しでも満足して頂けるようにしたいと考えている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床介助は当然ながら、着衣や髪形等、清潔を保たれるよう支援させて頂いている。季節に合った洋服を選び、おしゃれを楽しめるよう支援したり、毛染めや化粧等入居前と同じようにおしゃれ継続も支援している。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に合った調理方法やおかずを提供しています。見た目の盛り付けや、彩りにも気をつけています。共に食事をして支援しながらも食事の楽しさを分かち合えるよう配慮しています。	委託業者の献立により食材が届き、職員が調理をしているが、利用者の希望や状態によっては、代替食や刻み食、ペースト食、減塩食、糖尿病食などを提供している。 年2回利用者の希望にそって外食に出かけるほか、おせちや誕生会、クリスマス会などには行事食を取り入れ、食事が楽しみなものとなるよう支援している。 利用者は職員と一緒に、野菜の皮むきやテーブル拭き、食器洗いなどの役割を担っている。 職員は利用者と一緒に会話をしながら同じ食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の希望に沿った対応を心掛けている。専門業者に栄養バランスの取れた、献立を作成していただき、食事や水分の摂取量を記録して健康管理に配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨き、ガーゼ対応での口腔ケア、口腔ケア用の用品を個人の状況に合わせて支援している。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者様の力量、状態に考慮し自立に向けて力を入れている。定期的な排泄の状況を確認し話し合いを行い支援方法を検討している。入居者様の表情やしぐさを観察し、排泄時のサインを見逃さないような声掛けを心掛けている。	排泄チェック表や個人記録から、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して時間を見計らいながら誘導することで、トイレで排泄ができるよう支援している。 おむつの利用者はおらず、紙パンツを使用したり、夜間不安なく過ごせるようポータブルトイレを使用している利用者もいる。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医や看護師に相談しながら、お薬に頼らない便秘の予防を目指している。個々に応じてヨーグルトやゼリーを購入している。軽体操や散歩等の運動も日常的に取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の日時を指定することなく、できる限り気持ち良く入浴して頂く為に、今までの生活リズムや希望を取り入れている。	入浴は週2回を基本とし、利用者の希望によってはいつでも利用可能となっている。入浴を拒む利用者には職員や時間帯を変えたり、清拭や足浴で対応するほか、気にいった職員に着いて行き、別のユニットの階で入浴した例もあるなど、利用者本位に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに合わせて、無理せず休めるよう声掛けをまめに行い支援している。また、ベッドで休まれているときには室温調整にも気をつけ定期的に見守りを実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の症状、薬に対しての服用をよく把握し、服薬介助は必ず2名で確認し、入居者様へ直接に手渡し、服用まで見守り確認している。介助が必要な方は状況に合わせて援助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴を大切に支援に努めている。嗜好品などについても以前の生活や現在の希望に添えるよう努力している。全体での余暇活動も取り入れ全員で楽しみを共有できるような支援もしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前よりも少なくなってきたように感じている。職員だけでの支援にも限界がある為、家族や知人、地域の方々に継続して協力を求める努力をしていきたい。日常的にも、けして多いとは言えないが、個別に対応出来るよう努めている。	天気の良い日には、利用者と職員で事業所周辺を散歩し、五感を刺激しながら外気にふれる機会をつくっている。 年間行事計画を立てて、家族等の協力を得ながら車いすの利用者も一緒に初詣や花見、紅葉狩り、ドライブなどに出かけるほか、食材の買い出しと一緒にいくなど、気分転換を図れるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少数ではあるが、本人がお金を管理し、本人が欲しい物を買ってお金を払い、お釣りをもらうという本来の買い物の流れを実施している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や親戚に手紙を書いたり、年賀状のやり取りを支援している。また、入居者様自らが家族に電話で話しをすることで、不安や心配事を解消できるよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の状況に合わせて環境を変えるなど努力している。温度や季節感には配慮しているが、照明などの光については今後検討する必要がある。	居間兼食堂には窓際に小上がりの畳スペースがあるほか、テレビやラジオ、本棚、ソファがあり、利用者同士で会話を楽しんだり、自由に寛ぐことができる空間となっている。 ベランダにはプランターがあり、いちごや花を育てているのを見ることができる。 トイレは各階に4つあり、両側に手摺を設置するなど、全て車いす対応となっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員の方で支援を行っている。気の合った入居者様同士の生活は非常に大切であり、効果が大きいと感じている。	/		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に必ずご本人様、ご家族様に在宅での生活環境に近づくられる様に協力を依頼している。グループホームでの生活の中で新しく作られる環境も多いようだ。	居室にはカーテンやエアコン、整理箆笥、洗面台、ベッド、クローゼット、寝具が備え付けられている。 管理者は使い慣れた物品を持参して貰えるよう説明しており、利用者は家族等と相談しながら使い慣れた寝具類や目覚まし時計、テレビ、箆笥、携帯電話、位牌などを持ち込み、居心地よく暮らせるよう工夫している。 生ものや煙草、飲酒も職員管理のもと持ち込んでも良いことになっている。	/	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人個人の能力に対しての自立支援を心掛けている。	/		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームばなな

作成日 平成28年8月30日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	事業所の特性上、会議には毎回区長や民生員など、地域住民の参加をえること、あらかじめ課題を決めての会議の開催を期待する。	会議に、区長や民生員、地域住民の方々に参加していただき、地域の一員として生活できる環境をつくる。	区長や民生員、地域の方々に挨拶に出向き、参加の促しをお願いする。また、事業所のイベントに招待し関係性を築くようにする。	H28. 9月から H29. 3月
2	6	玄関の施錠やペット柵の拘束については、家族等への説明のほか、書面にて同意を得ること、検討会議を開いて、「経過観察記録」や「再検討記録」を残すことを期待する。	外部評価後、改善し今後も継続する。	今後も継続する。	完了
3	10	普段言えない意見を汲み上げるために、家族等に無記名のアンケートを実施することを期待する。	ご家族の方の率直な意見を汲み上げ、運営に反映する。	アンケート実施の趣旨を伝え無記名アンケートを実施する。	年内に無記名アンケートを実施する。
4	26	介護計画は利用者家族等の意向を取り入れた上で作成し、家族等に説明して署名と期日の記載を徹底することを期待する。	介護計画に利用者や家族の意見を取り入れ、本人がより良い生活が過ごせる様にする。又説明後の署名・期日記載を徹底する。	日頃の関わりの中で本人の思いを把握し、家族とのやり取りの中で意向を確認する。説明後の署名など記載依頼の電話連絡し、困難な場合は郵送しその後電話で説明し同意を得る。	現在、実行中。 年内には徹底する。
5	33	看取り介護に関する事業所の方針と判断基準を確定するほか、看取り介護を行う行わないに関わらず、重度化した場合に備えて職員の対応マニュアルを作成し内部研修を行うことを期待する。	看取り介護に関する事業所の方針・判断基準を確定し、職員の対応マニュアル作成し研修を行い、重度化に備える。	事情所の方針・判断基準を明確にし、専門職にアドバイス受けながら、職員対応マニュアルを作成・研修を計画し重度化に備える。	H28. 9月から H29. 3月
6	35	運営推進会議などで、地域住民の参加を呼びかけたり、訓練後次回につながる課題などを話し合うとともに、訓練結果を記録に残すことを期待する。米のほか数日間の食料品も備蓄することを期待する。	災害時に備えて地域住民の協力を得て利用者の安全を確保する。記録を残し次回につなげる。また備蓄の見直しをする。	運営推進会議や事業所イベントに参加呼びかけ交流を図り、訓練参加依頼し意見交換・記録残し次回に役立てる。	H28. 9月から H29. 3月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。